

ホームページへの掲載	
済	令和2年2月7日掲載

岐阜県立関特別支援学校

校長 和田 俊人

学校住所 関市桐ヶ丘一丁目2番地

電話 (0575) 22-4238

1 会議の名称 岐阜県立関特別支援学校 学校評議員会

2 会議の構成 【 学校評議員 】

梅村 美紀	Man to Man Animo 株式会社マネージャー
大竹 幸雄	NPO法人あおぞら会理事
ダーリンプル 規子	中部学院大学短期大学部幼児教育学科教授
森藤 由幸	くらしまちづくり協議会副会長
澤井 基光 (欠席)	関市社会福祉協議会会長

【学校関係者評価委員】

澤田 章 P T A会長

【 学校職員 】

和田 俊人	校長	田中久仁子	小学部主事
杉本 雅晴	教頭	堀 英男	中学部主事
佐藤 知子	事務部長	井上 真典	高等部主事
		旭 秀織	教務主任

3 会議の目的 学校運営について地域住民や学識経験者から幅広く意見を聞き、地域社会からの支援・協力を得て、開かれた活力ある学校づくりを推進する。

4 会議の開催 令和2年1月27日(月) 10:00~12:30

岐阜県立関特別支援学校 小会議室

会の内容(主な議題等)

- (1) 学校長挨拶
- (2) 各部1年間の報告について
- (3) 卒業生の進路について
- (4) 学校評価について
- (5) 当校へのご意見について
- (6) 学校長挨拶
給食試食会

5 会議の概要

(1) 学校長挨拶及び1年間の総括について

岐阜県立関特別支援学校教育計画の学校経営にある重点目標や重点項目を中心に成果と課題について報告した。

(2) 各部1年間の報告及び卒業生の進路について

各部より、1年間の成果と次年度に向けた成果と課題について、教育活動の様子に関する写真を交えながら説明を行った。

(質疑)

- 意見1 東京オリンピック・パラリンピック2020に関して、学校としての取組があれば教えてほしい。その他、卒業した後のフォローアップ支援はどのようにしているか。
- 回答 パラリンピックについて企業から参観案内がきたことがあり、それについては保護者に配布して参加希望を募った。また、児童生徒に向けてはパラリンピックの話をしている。同時に健常児者にも知ってもらい、広げていくことが大切と考えているため、授業や交流学習において、ポッチャを活動に幅広く取り入れている。
- 回答 卒業後の支援については、前担任、関係職員が追支援として様子を見に行ったり、卒業生の来校時に状況を把握したりするようにしている。
- 意見2 追支援について、学校で付けた力が卒業後の当施設に来て、人間的に大きくなると共にたくましく感じている。利用者にとっては、追支援や他の生徒の体験実習で、来てもらえることが刺激になっている。どんな顔でやっているのかを知る意味でも、意図的に続けてほしいと思う。
- 意見3 追支援においては、生徒の延長ではなく、社会人と社会人という関係で接していただけると大変ありがたい。在校生には、卒業後に競争社会へ入っていくことになるため、「利益追求」、「結果を出すこと」の大切さを伝えてほしい。
- (3) 学校評価について
「学習活動・家庭や地域との連携」「安心・安全な学校生活」「キャリア教育」の3つの柱について、アンケートの結果を提示しながら説明を行った。
- (4) 当校へのご意見について
- 意見1 アンケート結果のネガティブなところばかりに注目して改善していこうとすると、大変エネルギーがいる。「わからない」の回答を減らすような努力をしてはどうか。生徒が回答したアンケートのいじめの項目でも、「わからない」が3人いる。生徒の理解力にもよるかと思うが、特にここが減るとよい。
- 回答 「何が」「どこが」「わからないのか」を聞くことができるようにしていきたい(負担のない範囲で)。いじめについては、「なぜ」「どこが悪いのか」、質的なところも追及していきたい。
- 意見2 生徒間でいじめがある中で、防止するということでの職員間の話し合いはあるのか。
- 回答 まず、そのような話があった場合は、すぐに部主事に連絡が入り、部主事会で共通理解を図るようにしている。また、必要に応じて生徒支援委員会を開催することにしている。その中で、誰がどのように対応していくのかを決めている。
- 意見3 勤務している先生たちはアンケートに回答しているのか。
- 回答 このアンケートは保護者、評議員、回答可能な児童生徒のみである。教職員に対しては、事前にこの資料を配布して説明している。
- 回答 職員は、1～3月に自校反省を行い、次年度に向けての課題と対応策を検討している。
- 意見4 保護者の視点でアンケートを回答しようとする、「わからない」という項目が増えてくる。それは学校や授業を参観して、分かるところは書けるがそれ以外は書けない。学校として、「アピールしている」「伝えている」ということであればよいと思う。
- 意見5 危機管理の点で毎月行う避難訓練等どうして行っているのか、これでよいのかという視点をもって実施していくことが大切である。それが、本当の意味での周知徹底であると思う。
- 意見6 この地域は学校が集まっている。何かあった時に渋滞等も予想される。リスクをいろいろと考え、それを保護者にも伝えていく必要があると思う。
- 回答 交通の回避については、中濃特別支援学校、関商工高等学校、当校でルールを取り決めている。ただ、実際それができるのかどうかは実際に行えていないため分からない。こうなった時には顔が見える関係が重要であり、そのことは地域の連携につながっていく。児童生徒については、3日分の非常食を準備しているが、本当にそれでよいのか、学校だけで考えることではないのかもしれない。危機管理マニュアルについても、使えるものであるのかという視点で地域、PTAと一緒に考えられるとよい。
- 意見7 アンケートの15・19について、否定的な割合が増えているが、その結果について職員からの意見や反省はあったのか。
- 回答 職員会議には出しているが、具体的な意見は聞いていない。しかし、これを基に反省を行

っている。

回答 職員の行動を見ていると、同年代や同性とは話しやすいが、違うと話しにくかったりするように見える。40代が少なく、若い世代、ベテランが多いという職員構成のなか、世間話、人と人の付き合いができる教師が少なくなっている。何かあったらまずは部主事に話掛けてもらい、大きくならないように対応している。

意見8 アンケート回答者は母親が多いのではないかと。父親はあまり関わらない。母親と教師がうまく話していけるといいと思う。相談しやすいようにもって行ってほしい。

回答 残念ながらモデルになる教師が少ない現状がある。

意見9 企業の立場から話すと、コミュニケーションが取れる人は成績もよい。「たわいもない話が苦なくできる、電話ができる」ということ等について、ひとりの営業者として訓練している。

意見10 連携がうまくいっていれば、聞く姿勢ができる。話しやすい関係作りが大切である。

回答 どうしても当校は児童生徒と教師がマンツーマンで、線につながっている感じがある。面（チーム、組織）で対応できるようにしていく必要がある。保護者と管理職がさらによく話をすることも必要である。

回答 部主事会では、各部でのアンケートと全体でのアンケートを比較して反省をしてほしいと伝えている。その反省をもとに、次年度の運営における改善方法を考えてほしい。

意見10 最近の学生を見ていると、体験が少なくなっていると感じる。悪気はないがやり方が分からないなど、上の人たちと話をし、こう言う伝え方はいけないなど学べるとよい。人とのコミュニケーションはとても大切である。

回答 教員として基礎的な部分でコミュニケーション能力は大事である。それを向上させられるような取組を、次年度は考えていきたい。

6 会議のまとめ（校長より）

- ・皆様から頂きましたご意見を次年度へ生かしていきたいと思っております。

※今回の学校評議員会の内容について、当校のホームページに掲載させていただくことを全出席者から了解を得た。